※令和４年度以降入学生用

学校番号	324

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史精講	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書	新詳「世界史探究」（帝国書院）、詳説「日本史」（山川出版社）						
副教材等	ニューステージ　世界史洋覧（浜島書店）、新詳日本史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・過去から現在にいたる歴史の流れを正しく認識し、現代社会の諸問題を考察するために、日本史と世界史をともに学び、より良い社会を構築する一助とする。
・歴史事象を公正かつ客観的・多面的に捉える柔軟な視点や観点が求められる。歴史とは人と人との関わりによって紡がれるという意識を持ち、歴史的事象に「なぜ」の視点を持つことを重視して授業を進めます。「なぜ」そうなったのかを解き明かすために、関係する様々な要因を把握し、さらに資料、地図等になじんで、歴史的思考力を養うことをめざす。

2　学習の到達目標

・日本と世界の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連づけた知識を身につけることができる。
・日本や世界の歴史に関する諸史料に基づき総合的・客観的に考察する。このことにより、日本の伝統と文化の特色や国際社会についての認識を深め、歴史的思考力や異文化理解の力を培い、これからの国際社会で生きる人間としての自覚と資質を養う。
・文化の多様性・複合性と現代社会の特質を、歴史のつながりを意識して広い視野から考察し、地球市民として主体的に学ぶことができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	［世界史］世界の歴史の大きな枠組みと展開についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。 ［日本史］ 日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	［世界史］歴史的事象から課題を見出し、世界の形成の歴史的過程と文化の多様性・複合性を、世界的視野に立って多面的・多角的に考察することができる。 ［日本史］現代日本の諸課題を歴史的観点から考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	［世界史］ 歴史的事象に対する関心と課題意識を高め、世界の歴史を意欲的に追及することができる。国際社会に主体的に生き、地球市民としての責任を果たそうとする。 ［日本史］日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、地域社会や異文化の歴史・文化を尊重し、国際社会に生きる人間として主体的に考察しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	古代アジア地中海世界	・古代オリエント世界 ・ギリシア世界 ・ローマ世界 ・インドの古典文明 ・東南アジアの諸文明 ・中国の古典文明 ・南北アメリカ文明 ・北方民族の活動と中国の分裂 ・東アジア文化圏の形成	a:ギリシア文明・ローマ文明・アジアの古典文明、南北アメリカ文明に関する知識を身につけている。 b:地中海世界やアジアの古典文明の特質を見出し、その成立の過程を適切に表現している。中国の歴史の関係、中国の歴史と東アジアの民族の歴史の関係を考察し、適切に表現することができる。 c:オリエント文明やインド・中国文明について学びながら、世界の歴史への関心を高めようとしている。	・定期テスト ・ノート	・ワークシート	・グループ協議 ・ミニレポート
	内陸アジア・東アジア・イスラーム・ヨーロッパ世界の形成と発展	・草原の遊牧民とオアシスの定住民 ・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の発展 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 ・西ヨーロッパ世界の成立 ・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化 ・トルコ化とイスラーム化の進展 ・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴルの大帝国	a:東アジア世界・イスラーム世界・が形成される過程に関する知識を身につけている。また、西ヨーロッパの中世史や東アジア史に関する知識を身につけている。 b:遊牧民の活動と中国の歴史の関係を考察し、適切に表現することができる。インド・東南アジア・アフリカにイスラーム世界が形成された過程について、適切に表現することができる。東西ヨーロッパの形成について、その過程を適切に表現することができる。モンゴル帝国の成立がユーラシアの各地に与えた影響を考察し、適切に表現することができる。 c:世界各地の人々の歴史に対する関心を高めようとしている。また、各地の国家の形成について、意欲的に学ぼうとする。	・定期テスト ・ノート	・ワークシート	・グループ協議 ・ミニレポート

※令和４年度以降入学生用

後期	日本史原始・古代	・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容 ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士	a：旧石器時代から農耕社会の成立までの流れを理解している。ヤマト政権の成立から律令国家の成立、さらには平安時代の政治について通暁している。また、古代の文化についても理解している。 b：邪馬台国から律令国家の成立までの歴史を国内外の情勢を踏まえて多角的に考察することができる。律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会とのつながりなどもふまえて考察できる。政治の変化と土地制度の変化を関連付けて考察できる。唐文化の受容とその消化による国風文化の展開について考察できる。摂関政治の成立過程とその政治運営について考察できる。 c：考古遺物や基本的な文字資料に関心を示し、積極的に古代の日本の実態を理解しようとしている。	・定期テスト ・ノート	・ワークシート	・グループ協議 ・ミニレポート
	日本史中世	・院政の始まり ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・モンゴルの襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場	a：院政期の政治と荘園公領制について理解している。幕府と朝廷の二元支配と封建制度の成立、承久の乱後の朝幕関係の変化と蒙古襲来後の幕府の衰退、南北朝の動乱から室町幕府の成立までの歴史に通じている。鎌倉文化・室町文化について理解している。 b：荘園公領制を踏まえて、院政期の政治・経済構造を考察できる。平氏政権から鎌倉幕府の成立までの歴史を通して、公武二重支配の特質について考察できる。承久の乱と蒙古襲来が政治に与えた影響について、全国的にあるいは国際的な視野をもって考察できる。	・定期テスト ・ノート	・ワークシート	・グループ協議 ・ミニレポート

※令和４年度以降入学生用

	日本史中世	・院政の始まり ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・モンゴルの襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場	室町時代の歴史を東アジアとの交流や国内での庶民の台頭ということを念頭において考察している。現代の日本文化との関連に注意しつつ室町文化を学習している。 c:院政期の政治・経済を中世的要素を意識して学習している。公武二重支配という特性に注意して鎌倉時代の歴史を理解しようとしている。庶民の台頭と現代への連続性を室町時代の政治や文化の学習の中に見出そうとしている。	・定期テスト ・ノート	・ワークシート	・グループ協議 ・ミニレポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度